

鹿児島県出水市（国内 23 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 4 年 12 月 2 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は、丘陵地に位置し、周辺を雑木林や竹林に囲まれていた。
- ② 当該農場は、2 階建てウインドウレス鶏舎 2 棟からなり、背中合わせの直立 4 段 4 列ケージで採卵鶏が飼養されていた。
- ③ 当該農場は国内 17 例目発生農場を中心とした半径 3 km 以内の移動制限区域に位置している。

2 通報までの経緯

- ① 国内 10 例目及び 17 例目の発生に伴い 11 月 18 日及び 25 日に実施した周辺農場調査において、いずれも陰性が確認されていた。
- ② 飼養管理者によると、発生鶏舎（通報時 668 日齢）の 1 日当たりの死亡羽数は 15～20 羽程度であったところ、12 月 1 日に死亡羽数が極端に増加したわけではないが、1 階の連続する 3 ケージ（7 羽/ケージ）で 15 羽がまとまって死亡しており、更に生存鶏でも沈うつなどの症状が認められたことから家畜保健衛生所に通報したとのこと。2 階や他のケージでは異状や目立った死亡は認められなかったとのこと。
- ③ 調査時は、通報時と同一の場所付近で死亡鶏や衰弱した鶏が多数確認された。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場の作業従事者は 9 名で、うち 5 名が鶏舎での飼養管理、残り 4 名が集卵作業を担当している。
- ② 2 鶏舎の作業者は担当が 2 名ずつ決まっており、互いに別の鶏舎に入ることはないが、担当者の休み等により残り 1 名が補助に入るとのこと。また、どちらの鶏舎の作業担当者も、鶏舎作業後に集卵室での集卵作業も行うことがあったとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 衛生管理区域入口には立入禁止看板が設置されており、消石灰が散布されていた。車両用の出入口には自動式の車両消毒ゲートが設置されていた。
- ② 飼養管理者によると、従業員は出勤時、集卵室及び事務室のある事務所棟の入口前で踏み込み消毒（逆性石けん。1 日 2 回交換）を実施した後、手指消毒及びジェット噴霧器による全身消毒を実施してから衛生管理区域用作業着、靴及び手袋を着用しているとのこと。農場隣に居住している従業員は自宅から衛生管理区域用作業着を着用してくるとのこと。
- ③ 発生鶏舎の出入口は事務所棟の奥にあり、発生鶏舎に入る際は、事務所棟から発生鶏舎につながる通路の手前で鶏舎専用靴及び洗濯済み手袋を着用し、ジェット噴霧器で長靴及び手袋を消毒しているとのこと。非発生鶏舎へ入る際は、出入口に設置された踏み込み消毒槽で靴底消毒後、鶏舎入口で鶏舎専用長靴及び手袋を着用し、ジェット噴霧器で長靴及び手袋を消毒しているとのこと。
- ④ 鶏舎の換気は自動で制御されており、パネルで開閉する入気口には金網（1.5cm×10cm）が設置されていた。シャッター式の排気ファンも内側に金網（1.5cm×8cm）が設置されていた。排気ファンの反対側の壁にはクーリングパッドが設置されていたが、10 月中からは内側からパネルで閉鎖していた。金網に目立った破損は見られなかった。
- ⑤ 飼料タンク上部には蓋があり、飼料は飼料タンクから計量室に設置された計量装置

を経て、鶏舎内のラインを通じて自動で給餌されていた。

- ⑥ 飼養鶏への給与水は、次亜塩素酸消毒を行なった地下水を使用しており、鶏舎内のラインを通じて自動給水を行っていた。
- ⑦ 鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っており、オールアウト後は鶏舎内の洗浄・消毒を行い、その後の空舎期間は45日程度設けているとのこと。
- ⑧ 2鶏舎と集卵室は集卵コンベアでつながっており、鶏舎間の集卵コンベアには接続部のシャッター及び上部のカバーが設置されていたが、発生鶏舎から集卵室の通路への接続部にはシャッターが設置されておらず、集卵室側から鶏舎への小動物の侵入は可能と考えられた。
- ⑨ 鶏糞は5日に1回除糞ベルトにより搬出し、ダンプで農場外から500m程度離れた自場の堆肥舎に搬入し、堆肥化を行っているととのこと。除糞ベルトの搬出口にシャッターは設置されていなかったが、鶏舎内開口部には蓋が設置されていた。
- ⑩ 飼養管理者によると、毎朝の健康観察時に発見された死亡鶏は鶏舎出入口に溜めておき、当日の作業の最後に飼養管理者が回収し、農場に隣接する共同死鳥保管庫へ運搬していたとのこと。当該保管庫の利用農場は11戸あり、保管庫内が溜まってきたら化製業者に連絡して回収を依頼するとのこと。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 飼養管理者によると、農場敷地内ではセキレイやカラスを見かけるとのこと。野生哺乳動物を直接目撃することはないが糞を見かけることがあるほか、ノラネコを日常的に見かけるとのこと。調査時、頭上をツルの群れが飛翔しており、農場周辺にはカラスを確認した。
- ② 飼養管理者によると、当該農場では粘着トラップを用いたネズミ対策を行っていたが、発生鶏舎ではネズミによるケーブルの破損が年に1回程度見られるとのこと。調査時、集卵室の集卵コンベア下や、発生鶏舎の床にネズミの糞を認めた。また、発生鶏舎内で生きた子ネズミを認めた。また、発生鶏舎につながる飼料計量室で一部にネズミと思われるかじり痕が見られた。

(以上)